

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	110	実施計画番号	52
事務事業名	伝統芸能まつり		
個別事業名	伝統芸能まつり	事業開始年度	平成2年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	十和田市伝統芸能協会
背景や経緯等	十和田市教育委員会と十和田市伝統芸能協会が共催で開催している事業で、市内に古くから伝わる伝統芸能を披露する場を提供することにより、伝統技術の継承・後継者の育成を実施するために実施している。		
事務事業の目的	県及び市の文化財に指定されている市内の伝統芸能を広く市民に鑑賞してもらうことにより、文化財愛護精神を普及させる。また芸能の実演機会を設けることにより、伝承活動の活発化と後継者の育成を図る。		
実施状況	例年2月第2日曜日に開催し、市内にある伝統芸能保存団体15団体が、2つに分けて隔年で出演する。また、運営については市教育委員会担当の他、出演しない団体から2名ずつ派遣してもらい、運営係として従事している。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		0	0	0
うち一般財源		0	0	0
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①		出演団体数			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
			団体	13	11	13
	活動指標名②					
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①		入場者数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		人	目標値	600	600	700
			実績値	550	600	
			達成度(%)	92%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	110
計画No	52

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 各団体の後継者不足を解消するためにも、出演機会を設ける必要があるため今後も開催が必要であると考え。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 平成25年度は、文化庁補助金を活用し、市内の団体だけではなく、市内外の優れた伝統芸能を招聘し、披露してもらうことで、市内民俗芸能保存団体及び市民に対し、伝統文化及び伝統芸能への普及啓発、意識高揚を図るための公演を行う予定である。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 市教育委員会職員だけではなく、市伝統芸能協会の各団体より運営に関わる人の応援を得て事業を実施しており、コスト削減の余地はないものと考え。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 塾生は市内小学生を対象して募集、材料費の負担だけであり、公平性は保たれていると考える。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 当事業は、公演機会の提供並びに市民への文化財保護・愛護の精神の普及のため実施した事業で今年度で、24回目となり、各保存会だけではなく、小中学生を中心とする後継者の練習披露の場、目標となっている。近年、伝統芸能の披露する場、活躍場が減ってきている中、このような数少ない発表の機会は重要なため今後も継続して、実施していきたいと考える。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果 市伝統芸能協会の予算内では現状維持が精いっぱいのため、外部の補助事業を検討し、事業を拡充できるよう取り組んで参りたい。